



omozo

Free Paper
2012
5/17
vol.17



特集

大学生が主人公の本

特集

大学生が主人公の本

.....

4

book review

白川道

病葉流れてわくらば

森見登美彦

四畳半神話体系

佐藤友哉

フリッカー式 鏡公彦にうってつけの殺人

倉田百三

愛と認識との出発

国大読書マラソンコメント大賞

受賞者インタビュー

.....
12



自分は青葉ではない。
病葉だ……

進

学したのは有名大学だった。真面目に勉強をして就職をすれば、恵まれた将来が約束されていたはずだった。しかし彼はそんな人生を否定した。自分が周りとは違う、他の友人たちのような青葉ではなく「病葉」だと気付いたとき、「放蕩の日々」は始まった――。

時は学生運動が盛んな一九六〇年代。大学進学を機に上京した梨田雅之は時代の波に揉まれながら、酒、女、そして博打、特に麻雀にのめり込んでいく。本書はそんな一人の大学生の成長を描いた青春ギャンブル小説だ。

新宿をはじめとする街並み、雀荘や酒場、そしてそこに生きる人々や裏社会が本書ではとてもぎらぎらと描かれている。その情景

は私の知っている世間とはかけ離れているが、しかしかつては梨田のように、学生の本分と言われる学業を放棄し博打に溺れていった大学生も少なくはなかったのだろう、と想像できる。数十年前の昭和の日本では。

本書に特に凝った伏線はない。ストリートに人間を描いた小説だ。自分の博打観を育てながら博打の世界に身を沈めていく男の人生を、淡々と。博打をうつことの善し悪しを論じているわけでもない。しかしそれでもこの小説に引き込まれるのは、本書を読んで初めて気付ける生き方があるからだ、と私は感じた。もちろん、梨田の考え方や生き方に共感できない場面は多かった。だが、梨田は確かに学校に行かなくなり借金を

抱えながらも麻雀にのめり込んでいく「ロクデナシ」であるのだが、それでも彼は自分自身をきちんと見つめているのだ。周囲に流されているのではなく、物事の本質を見抜き、自分の意思で自分の未来を決定して進んでいる。そこに後悔はない。

梨田が抱く情熱、反抗心、そして挫折。それらの身に覚えのある感情に、そこが自分とはまったく正反対の世界だったとしても、流れる想いはきつとどこでも、いつでも変わらないのだと、思う。

「恥ずかしいこと、って、他人に対しておもうべきことじゃないわ」作中である人物がそう語る。「恥ずかしい」ということは、自分に対して恥ずかしいかどうかが、それで判断すべきこと」なのだ。

この言葉はとても衝撃的で、しかし心にスツと抵抗もなく沁み込んでいった。私は気がつかないうちに他人を基準に物事を判断し、また人生における選択をしてはいないだろうか。そんなことを改めて自分に問いかける。

さまざま人と出会い、さまざまな世界を知る大学時代。この書評誌を手に行っている大学生のみなさんは大学に入学してから、もしくはこの先、どのように価値観が変化していくだろうか。そしてどのような将来を思い描いていくだろうか。

本書「病葉流れて」は実は三部作の一作目で、この後「朽ちた花びら」「崩れる日」などにもおもしろく続く。梨田のこの先の人生が少しでも気になったら、ぜひ続きも

手にとつてほしい。三作目まで読み終えたとき、貴方は梨田をどんな人間だと思っただろうか。そして彼の人生を見た上で自分自身の将来をどのように捉えるだろうか。人それぞれこの小説に対して思うこと、感じることは違うはずだ。しかしその自分だけの感想がきつと、自分自身の将来への指針の支えの一つとなるだろう。

文庫：477 ページ
出版社：幻冬舎
ISBN-10：4344405528
ISBN-13：978-4344405523
発売日：2004/08





このくだらない、
すばらしき世界。

白 状しよう。私は大学生にな

るまで、否、なつてからも
しばらく大学生というものが全く
といていいほど分かつていな
かった。高校までの生活とは全く
違うというのは分かつていたが、
だからといって何が違うのか、ど
うすればいいのかを全く理解して
いなかった。そのせいで、この一
年をだいたい無意義に過ごしてし
まったのである。そもそも大学と
いうのは教育機関として中高と
同じ括りにしていいのかというぐ
らいに勝手が違う。今までの軍隊
を彷彿とさせる世界から一転、法
に触れない限り何をやるのも自由
である。バイトやサークルに明け
暮れるもよし、靴一つで海外に飛
び出すもよし、学生らしく勉強に
没頭するのもよいだろう（それが

本来の学生ではあるのだが）。た
だしそれらの行動はすべて自己責
任である。今までのように担任も
クラスも時間割も存在しない。授
業選択も友達作りも部活選択も何
もかも自分で動かなければ誰も
やってはくれない。楽しい大学生
活は自分で作るしかないのであ
る。しかも選択を間違えればカル
ト宗教に嵌ったり、遊びに明け暮
れて留年、最悪退学ひきこもりと
いう可能性もあるのだ。

見え隠れしており、何処か憎めな
い。無意味な悪の権化である小津
は方向性はともかくとして八面六
臂の活躍を見せてくれる。そして
樋口師匠や明石さん、その他諸々
の一癖も二癖もある登場人物たち
が縦横無尽に文面を駆け回り、こ
のくだらなくも愉快な物語を作り
上げているのだ。

そんな良くも悪くも可能性に溢
れた大学が本作「四畳半神話体系」
の舞台である。主人公兼語り部の
「私」は京都に住む冴えない大学
三回生。薔薇色のキャンパスライ
フを夢見た筈が、現実が悪友の小
津や謎の自由人樋口師匠に振り回
された挙句、孤高の美女明石さん

にはお近づきになれないまま大学
二年間を棒に振っていた。小津に
出会わなければ、入るサークルを
間違えなければ……！後悔にまみ
れた「私」は四つの並行世界に迷
い込む。

本作の面白いところは何といっ
ても物語の緻密な構造だろう。本
編で私は四つの並行世界で四つと

も違うサークルに入り、違う物語
が展開される。しかし独立した物
語の間で同じ人物と関わったり、
同じ言い回しが使われていたりと
各話が絶妙にリンクしており、全
話読み終えて初めて「四畳半神話

体系」の全貌が見えるのだ。その
複雑に絡み合った物語を支えるの
は魅力的な登場人物である。語り
部である私は理屈っぽい口調で尊
大に語りながらも、所々で本性が

本作は森見登美彦の代表作であ
り、アニメ化もされているので知
名度も高く、正直私が紹介するま
でもなく名作である。それでも私
がこの本で書評を書いたのは、こ
の作品が、大学という色々な意味
で広大な世界を生きていく上で何
かしらの助けになるだろうと思っ
たからだ。新一年生の方はこの作
品を読んで過度の期待を捨ててい
ただきつつも、自分なりの大学生

活を展開していったほしい。在校
生で私と同じく怠惰な生活を送っ
てしまっていた方はこれを機に大
学生生活を充実させていってほし
い。私も来年こそは有意義な大学
生活を送りたいものだ。いや、送
らないとまずい、うん。

文庫：405 ページ
出版社：角川書店
ISBN-10：404387801X
ISBN-13：978-4043878017
発売日：2008/3



賛否両論の多いこの作品ですが、その理由は登場人物たちの性格、諸設定、文体が前衛的すぎることです。まさしく「ゼロ年代小説」といった感じです。それらの印象があまりに鮮烈すぎるため、こういった手合いの作品に慣れ親しまない人にはもしかしたらとてもつまらない作品に思えるかもしれません。ですが作家がこの作品で何をテーマとしているのか、どういった役割を登場人物たちに担わせているのかを丁寧に考察してみると、この作品の奥深さが伝わってくると思います。ですから私はこの作品は一度ではなく再読することをおすすめします。読むたびに違った感想を抱くかもしれません。ところでこの作品のタイトルは「フリッカー式 鏡公彦に



妹のことが好きすぎて 頑張る方向を間違えちゃった お兄ちゃんの本

『「おにーちゃん、おは」入り込んだ佐奈は、僕の安眠をサククリ妨害してくれた。』なんだからとてもギャルゲーな書き出しです。じゃあこれってよくある妹萌えのギャルゲーみたいな話なのか、と読者に思わせておいてこのあと妹が自殺します。そして彼女がレイプされていたことを主人公の公彦は知らされます。だからこそ『本書は、「ああっ、お兄ちゃんーん」と云う方に最適です(嘘)』という作者の煽り文句があるわけなんです……。

公彦はレイプした男たちに復讐を企てますが、彼らは社会的に地位の高い人間でそう簡単に近づけません。そこで公彦が取った行動は男たちの娘を拉致監禁するとい

うものでした。こうして公彦が善良な一般市民から犯罪者に成り下がっていた頃、彼の幼馴染である明日美は世間を騒がす連続殺人犯、突き刺しジャックと対決していました。彼女はある不思議な能力を持っており、「彼」が殺人を犯すときだけ「彼」の視界を共有することができました。自分の能力に怯えていた明日美でしたが、自分の友達を殺されてしまったのをきっかけに「彼」に立ち向かう決心をしたのでした。果たして公彦の復讐はどうなっていくのか。明日美は突き刺しジャックにどう立ち向かっていくのか。そして二人の物語はいつたいどのようになり展開になっていくのか。予想もつかない展開になっているので、飽きずに読めることと思います。

うってつけの殺人」ですが、この「フリッカー」という言葉を貴方はご存知ですか? 「フリッカー」というのはディスプレイに生じる細かいちらつき現象のことで、「フリッカー」の生じているディスプレイを長時間使っていると、疲労・めまい・吐き気などにつながるそうです。

この本、読むとどつと疲れます。当たり前ですが、何度も読めばそれだけ疲れます。慣れない人は余計精神的に疲れると思います。作者もそれを意識してこのタイトルをつけたのかなと思われま。この作品を読む際はくれぐれも気を付けてください。



文庫：464 ページ
出版社：講談社
ISBN-10：4062753197
ISBN-13：978-4062753197
発売日：2001/7



この本を、一年、
後れて来たる青年（新入生）
に紹介したい。

のことに気づかされる、ただでなく身を以てヒントを与えてくれる。自分の苦しみを分かち合い寄り添ってくれる。それは彼の「考えたこと」によってではない。「考え方」でもない。その「態度」にである。この本は著者の青春に立ち向かった正直な記録なのである。彼は青春のすべてをこの本に記してくれた。自分の人生への態度。僕はその、態度に打たれた。自分もこの態度で生きていかねばと思った。そして自分の思想を形作らねばならないとも。善とはなにか、真理とはなにか、友情とはなにか、恋愛とはなにか。自分はまだ答えを見つけていない。思うに著者の考察も答えではない。僕は答えを自分の言葉で語ることができない。いろんな本をよんで、

大学生が主人公の本で書きなさいと先輩から言われたのだけれども、この本は論文集である。そもそも主人公が登場しない。しかし読んでもらえればわかると思う。この本は大学生である著者自身の、普段疑問に思い悩み苦しむような事が書かれている。読者それぞれが主人公と感じてしまっただろう。実際この本は百年ほど前に書かれたのだけれども、第一旧制高校（今の東大）で一番よく読まれた本である。人生の問題についての深く、正直で、情熱的で、しかし未熟と誤謬を含む著者の考察がきつと彼らのところに響いたのだ。青春を迎えるものにとって、同年代である著者の悩みぬいた言葉はとても重くまとわりつく。問題を提起され、答えを覆

話を聞いて、何となく納得したものがあってもそんなものはとても脆い。きつと自分で苦悩して考え語れるようにならなければいけないのだ。僕は彼のような態度に立ってこれからの青春をいききたいと思う。

最後に著者の言葉を引用しよう。

「青春は短い。宝石の如くにしてそれを惜しめ。俗卑と凡雑と低吝とのいやしくもこれに入り込むことを拒み、その思いを偉いならしめ、その夢を清からしめよ。夢を見ることを止めた時、その青春は終わるのである。」

この本に書かれた著者の宝石の輝きを、我々後れて来たる青年は感じ取るべきであると僕は思う。

され、僕たちは自分をそして人生を深く直視しなければならなくなる。実際僕はいままで生きてきた中の価値観がくずれ始めているのを感じていた。うすうす感じていたものがこの本の中で言葉に書かれ、意識させられる。それはとても苦悩を伴う。しかし著者の考察は百年たってもなお青年が通る道を照らすことができるのだ。幼さと感傷にまみれた言葉は今でも大二病の一言で片づけられるのかもしれない。しかし僕たちが思想を成長させるために通らざるにはいられないこと、人生のなかで立ち止まり考え直さなければならぬこと、つまり必要な精神のものがきつとある。それらはださくてかっこわるくても苦しみ乗り越えなければならぬ。そ



文庫：369 ページ
出版社：岩波書店
ISBN-10：4003106733
ISBN-13：978-4003106730
発売日：2008/10

読書マラソンインタビュー

—本日は忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日のインタビューの連絡が行き渡ったのが一昨日という、本当に急な話になってしまいました。お集まりいただいた受賞者の5人のうち3人が、身内の友蔵員なんです。ですがそんな中、催花雨さんとりいちさんの御二方が参加して下さい本当にありがとうございます。企画がこれでなんとか成り立つので。

—では挨拶もこれぐらいにして質問の方に移らせていただきます。この度読書マラソン大賞を受賞されたわけですが、その時の率直な感想をお聞かせください。

催花雨（以下、さ）…感想ですか。

—のか、そこをお聞かせください。というも僕自身も、五百円券もらえるじゃないですか、5枚出すと。それ欲しさにやってみたんですが、同期が不純なせいかあんまり書けなかったんですよ。でも受賞者の皆さんのを見ると「あつこのコメントカードいいな」って思うわけですよ。どうしてそれほどカードを作れるモチベーションと言いますか、やる気が起きたのかというのを聞いてみたいと思います。因みに友蔵員のみなさんは、なんで知ったのかっていうのを聞くのもお門違いですので、答えてくださらなくて結構です。ではお願いします。

—さ…私は確か入学してすぐ、生協オリエンテーションあったじゃないですか。その書類の一式のなか

—はい。

—さ…びっくりが一番大きくて、私受賞した一枚しか出してなくて、それで出したことを忘れて「えっあれが？」という感じで…。それも作家賞をいただいて、その作家賞があることも知らず、とにかくなんで生協さんから電話かかってきたんだ？という感じになりましたね。

—りいち（以下、り）…本当に、どういうことだと思って。大賞があるのは知ってたんですけど、完全に自分に縁のない話だろうと思っていたので、そうなんだと思いましたが。私は逆に結構枚数出してどの本で受賞したのかも分からず、「どれだどれだ？」と自分の中で記憶を呼び起こしたかんじですね。

—に入っているのを見て、もともと本読むのが好きだったんで。あと、読んだ本が面白かったら、感想を書き留めておきたいなって思ってた。四年間で百冊ですか。目標を立てるのもっていいなって思いました。で、出そう出そう思ってた。で、出したの結構遅くて、四月からしばらく経っちゃって、でも国大読マラコメント大賞もあるしいんじゃないかと思って出しました。

—り…知ったのは催花雨さんと同じ生協オリエンテーションなんですけど、もともと本読むの別にそんなに好きじゃないので、あまり縁のない話だと思ってたんですが、でも五百円券くれるんだったらやろうかなと思って。しかも大学の図書館って不純なこと言いますけ

—へキサン（以下、へ）…とっていいのかなあ…って。本当にこれでいいのかなって思いました。申し訳なかったです。

—Sin（以下、S）…えっとでっかい賞じゃなくてよかったなあ、って。

—一同（笑）

—たしかにそうですね。では、でっかい賞をとった…。

—栞（以下、し）…痛い。本当にとっていいのかなあというのには有りませんでしたね。ちょっと二個取りもしてしまっただんですけど、枚数出してたんで勘弁…っていう感じですね。

—では次に、この読書マラソンを知ったきっかけというものをお聞きしたいと思います。で、知った上でどうして投稿しようと思った

—ど、めっちゃ大きくてカッコいいじゃないですか。あそこで本借りてたら大人に見えるんじゃないかなって。

—一同（笑）

—り…本借り出して、どうせだったら書こうかなってという感じで。

—動機というのをお願いします。

—へ…コメントカードの。

—はい。

—へ…コメントカードは、普通に自分で記録をつけていたので、感想みたいなのを書くのもいいかなと思って。で、書こうと思ってたんですけど、新入生コメント大賞にはもちろん間に合わず、でも出すべきかな、と思って。書く本には困らなかつたので。

—確かにへキサンさんは結構書いていらっしやいますね。次の方ど

うぞ。

S:せっかく登録したから書こうかと思って、とりあえず書いたの一枚だけ出して、あとは続かなかつちやたんですけど。本読んだら次の本が読みたいので、あまり感想書く時間がないですね。書く時間を惜しんで本読みたいですもんね。

S:はい。

し:私は、もともと本はすんごい読める方なので。せっかくなら自分の読書記録を付けとこうかな、と思いました。

―なるほど。ありがとうございませう。それでは一周しましたので次の質問に。これはオススメだ、皆に読んでもらいたい、という本がありましたら是非お聞かせ下さい。

さ:私は宮部みゆきさんの「プレイブストーリー」が一番好きですね。ファンタジーですけど深いので印象に残っています。何回も読んでますね。

―「プレイブストーリー」って結構分厚いじゃないですか。あれって好きであれば何回も読めるものですか。

さ:読めるものですね。

―「プレイブストーリー」と言えば映画化―アニメのやつでしたか―されてるわけですけど、あれもやっぱりご覧になれましたか?

さ:ちょうどアニメ化が決まって本屋さんの表に出てきて、それで知って読んで。読んでから見に行っただんですけど、やっぱり原作の勝ちかなあって。

―一同(笑)

でそのお店に猫を借りに来た人の話がいくつか入った話で。その借りに来た動機も、どうするかもバラバラなんです。読んでて、結構分厚目なんですけど、まあ飽きないな、と。

―短篇集で分厚いということは話数がたくさんあるわけですか?

り:たしかそれなりにあったと思います。

―なるほど、そうなるやっぱり重松さんの本はよく読まれるんですか?

り:いや、そんなに。

―一同(笑)

り:図書館とかで、これはっていうのやビツときたのを読むので。

―その猫を借りにくる人の動機で面白いのがありますか?

り:二人暮らしの夫婦さんがいて、

し:それはすごいわかる。
さ:設定とか話とか色々飛ばして端折ってたじゃないですか。
し:ラストも違ったし。

さ:あれはあれでいいと思ってるんですけど。本だから自分で想像したりとか出来ますし。
―ではどうぞ(りいちゃんに向かつて)。

り:えー、なんだろ。

―なんでも結構ですよ。

り:今までに覚えてるのってあんまないんですけど。重松清さんの「フランクットキャッツ」っていう短篇集があるんですけど。あんまり知られてないんですけど、なんか猫の貸出をやっているお店があって、例えば三日間だけ猫をレンタルさせて猫を飼ってみませんか、っていうお店なんですけど、

奥さんの方が猫飼いたいと言い出して、ただそれだけの理由で飼ったのに、最後結局やめようってことになって返しちゃう話とか。どんでん返しが面白くて。

―ああ、そういうような話が沢山入っているんですか。

り:ええ、そうですね。

―猫好きにはたまらない本ですかね。

り:そうですね。たまらないと思いますよ。

へ:読んで欲しい本って人によって趣味って結構違うし、合う人にあんまりあったことがないので、余計なことって面白くなかった

と言われるのが辛くて、あんまり人に勧めるの得意じゃないんですけど。今ちょっと自分の読んだ記録見て、梨木香歩さんの「僕は

そして僕たちはどう生きるか」がありますね。梨木さんのファンタジックなイメージとかそういうのもあるんですけど、主人公が14才とかの少年たちの話の割にすごい気難しくて、哲学的ですごい話だなと思ったのを、思い出したので、結構いいです。

S:受賞作が、橋本紡さんの「流星が消えないうちに」っていう事と、橋本紡さんの本の中で一番好きでちょうど今手元に持っている本をおすすめしようと思います。

「綾乃ちゃんのお告」っていう本で、この本は綾乃ちゃんっていう小学五年生のちょっとだけ不思議な力をもった他はぶつうの女の子の話で。おばあちゃんが教主様で、おばあちゃんが亡くなったせいで相続とかのトラブルが起こった為

に、次期教主様である綾乃ちゃんの身の危険を防ぐためにいろんな家庭に預かってもらう。で、その預かってもらう過程のなかでいろんな話があるっていう、三つの話が入った短篇集になっています。中短篇集かな。

何故この本が好きかって言うと、僕は基本的にミステリーと暗い話が好きなんですけど、その次にファンタジーが好きで、特に少し不思議な力だったり、例えば霊が見えるとかそういう力を持っていてそれを使って誰かを幸せにするっていう話がすごい好きで、これもそんな話なんだけど。綾乃ちゃんは教主様で、ちょっと不思議な力を持っていて未来が見えたり霊が見えたりする以外は、本当に普通の小学五年生の女の子です。

にすべて言葉にしまつて、内情どろどろですごく読みにくい部分なんですよね。経験の差っていうのも勿論あると思うんですけど。

そういうのがあって、浅田さんの本の中でも私が一番好きな「シエラザード」は是非とも大学生に読んで欲しいです。内容は……ちょっと読んでから聞いて欲しいので、ビブリオ風にするのはやめます。

— 超大作から短篇集まで色々なジャンルを推していたら、どれも読んでみたくなる本ばかりでしたね。では次に、好きな作家さんを教えてください。友蔵では、今回の高野和明さんのように年一回のトークショーをやっています。ですからもしかするとここで

だからこの女の子が言う予言がすごい奇跡みたいに感じられるけど、それが温かい奇跡で、現実には置き換えても、単純にただ隣にいる人の一言だったり、自分がその受け取り方によって奇跡になったり、無視してたらその言葉はただの言葉になってしまう。そういう事が感じられるすごく心が温まる本なので読んでください。— 橋本さんって「半分の月のぼる空」を書いた人でしたっけ。
S: ああそうです。で、この本の二番目の話が伊勢の話で、その中で「半分の月のぼる空」のキャラクターが出てきたり、言い回しが出てきたり、ちょっと知っているのと面白いです。

— 伊勢ですか(伊勢好き、関西人)。
S: 伊勢です(笑)。

言った作家さんが本当に来年くるかもっていうことになるかもしれないです。— 私はやみやねかおるさんと高里椎奈さんが好きです。昔からよく読んでました。

— その作家さんとの出会いというのは。

さ: はやみやねさんは、青い鳥文庫ってあるじゃないですか。小学生の時に読んで、そこで読書楽しくなって思っ、そこから本が好きになったっていうのがあって、ずっとシリーズを読んでいって。

高里椎奈さんは新聞の「朝日新聞のブックレビュー」みたいなページがあるんですよ、日曜日に「そこで読者のページ」みたいなので紹介されて、美少年探偵が出てきてしかも妖怪っていう私が好きなの

し: 私は超大作ものが好きで、しっかりした作品が好きなのと、歴史とか時代小説みたいなものが好きで……よくオヤジ臭いって言われるんですけど。

— 一回(笑)

し: まあそれはおいといて、浅田次郎さんの「シエラザード」が今まで読んで中で衝撃を受けたものだと思います。で、それを薦めたいな。史実をもとにして書かれた小説で内容も重いんですけど、浅田次郎さんってやっぱり本を書く上で勉強されてるなっていうのがわかるし、文章の表現一つとってもやっぱり書き方がうまいんですよ。浅田次郎さんってちょっと最近の作家さんより古めじゃないですか。最近の作家さんの私が苦手な所は、心情を書くときに本当

単語があつて、ああこれは読むしかないなと思って、一冊読んだらハマって、それですつと読んでますね。絶対オススメです。読んでください。

り: 私、普段作家さんとか意識して読まないんですけど、なんかなく自分の中で、困ったら村上春樹読んで、みたいなのがあって。高校の現代文の先生がすごい薦めてたっていうのもあるんですけど、今出てる「1Q84」とか。

高校入ったときに一番最初に習った文が「カンガルー日和」っていう短篇集で、意外とその作品が好きだったの、まあ困ったらとりあえず読んでこうかなって感じですね。

へ: いっぱいいるんですけど、小路幸也さんと辻村深月さんで、こ

の二人の人の作品は必ず読んで、必ず好きになれるっていう自信みたいなものがあるので、迷わずに読んでますね。結構推してるんですけど、小路幸也さんとかあまり売れてないんで、そんなに好かないのかなあって思ってます。すごい好きで、いい作品書いてると思うんですけどね。

S: えっと作品として好きなのは米澤穂信さんと橋本紡さんと宮部みゆきさんですね。で、作家まで愛してるのが、米澤穂信さんです。そこはちょっと置いて、橋本紡さんの本はだいたい全部読んでいて、ほぼその三作家さんは全部読んでるんで、ぜひ読んでください。し: 私が考えてるようなジャンルは全く出なかつたんで言いづらんですが、時代小説系だと、たぶ

すね。

り: 私は単純に大学入ってこんな読むようになったのは、通学時間が出来たからでして。小学校の時は歩いて五分くらいのところで、中学校は十分ありゃ着くだろうって感じで、高校は遠かつたんですけど自転車を通ってたんで、本は読まなかつたですね。だから電車通学になって、それこそ二時間とかかかるようになると合間、寝るか勉強するか本読むかしか選択肢ないじゃないですか。で、寝るのはもったいないだろう。勉強するほど真面目じゃないし、まあ本読むかなあって。

——同(笑)

り: それがきっかけですかね。本当に昔は本読まない子だったんで。

んおじさん世代しか知らないとおもうんですが、山本一力さんで江戸の職人さんの話が主なんですけど、司馬遼太郎とかそこらへんがだいたい武将ですとか有名な人を取り上げるのに比べて、山本一力さんは町人とか職人とかを取り上げるので、前にNHKでやってた土曜時代劇の感覚で読めて、時代小説とか読み始める人に結構私がお薦めしている作家さんで、怖々と薦めているのは私がすごい好きな宮尾登美子さんです。彼女は本当に文章が綺麗で、力強い女の人の描き方が上手いんです。ぜひ読んでください。

——では皆さん本の愛好家という訳でいらっしやいますけど、本を読むようになったきっかけとか出来事というのがもしあればお聞かせかね(笑)。

へ: 私は、きっかけとか全然覚えてないんで、ないと思うんですが、小さい頃から親は本しか与えなかつたし、私は買わないでほぼ99%図書館で借りるんですけど、それも親が毎週図書館に行く習慣があつて、それについていて本借りて読んで。本当小学校入る前ぐらいから本はずっと、特に読まないことに疑問を抱かなかつたというか。高校までは忙しく、まともった時間も取れなかつたのですが、大学に入って通学時間も長くなり、目標何冊読むみたいなのもできて、マメに本屋にチェックしに行く習慣も付きましたね。

S: 気づいてたら本読むように

ください。

さ: きっかけですか。——ですね。今の読書ライフが築かれたきっかけみたいなものでもないの。

さ: さっきも言ったんですけど、私は小学生の時ぐらいに面白い本とかに出会って、一冊ハマるとシリーズとか全部集めて読破したいタイプで、わーってのめり込んでいって、そこからその同じ作家さんの別のシリーズを読んで、似たような系統の作家さんに移っていく感じですね。新聞の下の広告を見て面白そうだったら買ってみたいもします。

——それじゃあ本は基本的に買う派ですか？

さ: そうですね。買う派ですね。新品が欲しくなっちゃうタイプで

なっていたので、いろいろ思い返してみても、おそらくこの二つの作品が自分が本を読むきっかけになったんじゃないかなって言うのがあつて。一冊は絵本で、エリック・カールさんの「はらぺこあおむし」。でこれを昔から読んで、今も一年に一回は読み返すんですけど、何回読んでも好きですし、それ読むたびに絵本っていいなって思います。そしてもう一つが、小学校一年か幼稚園で読んだ「ハリーポッター」ですね。あの本で同じ本を何回も読み返したりするっていう習慣が付きましたね。「ハリーポッター」は全巻出てから、毎年夏休みに全巻読破してます。

——同(笑)

S: おそらくその二冊がきっかけ

なんじゃないかなって。
 し…私も気づいたら本と共にあったので……。すごく遡れば、親がすごい読み聞かせしてくれてたんですね。それで結構文字に触れる機会が多くて、気づいたら小学校の時から授業のチャイムが鳴ったのに気づかず本を読んで先生から怒られるっていう子供でした。そして大学に入ってからずっと、すごい時間が取れるようになって、すごい本買う派なので出費がすごいんですけど、本に囲まれて幸せな毎日を送っています。
 —本当に皆さん、いろいろなきっかけがあるんですね。それでは最後になります、これから読んでみたい本、挑戦したいジャンルなどがありませんか、どうぞお聞かせください。

ジャンルは広がっていて、ロシア文学などは大学に入ってから大分読んでるんですけど、フランス文学が読めなくて、すごい苦手なんです。私読めないっていうのがその本に負けた気がしてすごく悔しいですね。
 —一同(笑)
 し…ちょっと屈服させてやりたいなって思っ今はフランス文学を讀みたいと思っています。
 —みなさんおもしろいお話をありがとうございます。それでは今日の受賞者インタビューは終了とさせていただきます。皆さんお忙しい中ご協力ありがとうございます。

さ…この間作家賞の副賞でいただいた有川浩さんの「県庁おもてなし課」を読んではないので、それを讀みたいと思います。
 り…単純にまだ読んでないので読みたいのは、「1Q84」の第三巻を。一までは読んでますけど、三はまだ読んでないので読みたいのと、ちよいちよい読んでるんですが、音楽家の自伝みたいなものを結構読みたいです。音楽やっているの、普段はあんまり本買わないんで、それこそ本買うんだったら楽譜買うくらいなので、でも図書館に結構そういうのって多いじゃないですか。ちゃんと、まじめに読んでみたいです。
 へ…私は、単純に、予約してて全然来ないのが、貴志祐介の「新世界より」で、文庫で三冊なんです



けど、一冊目が全然来なくて、それが早く来い早く来い、っていうのがありますね。ジャンルとしては海外文学と純文学にそろそろ手を出す頃かなって。今までは好きな本ばかり読んでいたので、あまり海外文学とか読んでいたことなくて苦手意識があり、そろそろそういうのも読んでいこうかなとは思っています。
 S…読んでないけど手をだしてみたいっていうのは、哲学書ですかね。カントとか読めたらいいかなって思っって、そろそろ読んだほうがいいんじゃないかなっていうのと、ただ単純に出てないから早く出て欲しくて読みたいのが、米澤穂信さんの新作の「リカーシブル」ですね。
 し…私はもともともう既に結構

新入生の君には豪華賞品が貰えるチャンス!!

実はコメント大賞にはもう一つ、新入生が書いたコメントカードにのみ贈られる新人コメント大賞というものがありません。ルールは普通の読マラと同じですが、コメントカード受付締め切りは五月三十一日と日が迫って来ています。これを読んでる新入生はすぐに生協本館書籍部に行っって参加申込みをするしかない!!

- 新人読書マラソンコメント大賞各賞
- 優秀賞…1名
- 図書カード三千元
- 優良賞…4名
- 図書カード千円
- 友蔵賞…2名
- 生協図書カード五百円

読書マラソンに参加しよう

読書マラソンとは

読書マラソンは、大学生生活の4年間で本を100冊以上読むことを目標に、全国の大学生協で行われている読書推進活動です。横浜国大生協においてもその活動は行われています。活動内容はいたってシンプル。本を読んで感想を書く。これだけです。

では読書マラソンへの参加方法を紹介します。特に難しいことはありません。

① 生協店舗にあるエントリーシートに必要な事項を記入して、書籍部の店員さんを持つ

エントリーカードの募集をして、最も素晴らしいコメントを決めよう、というものです。各賞には豪華な景品が設けられています。今年度も全国から多数の応募がありました。

そんな全国読書マラソンコメント大賞にあわせて、横浜国大生協でも「国大読書マラソンコメント大賞」が開催されました。多くの応募があり、そのどれもが素晴らしいコメントの数々でした。その中から厳正な審査の結果、最優秀

ていってください。手続きがすんだらエントリー完了です。

② 本を読みましょう。ただしコミックスや雑誌、教科書は対象外になっています。

③ コメントカード（ポップカード）に本の感想を書いて、書籍部の店員さんに提出しましょう。コメントカードは書籍部の店員さんに頼めば貰えます。

では参加するとどんな特典があるのでしょうか。実はコメントカードを10枚提出するごとに、横浜国大生協でつかえる図書

賞他が決定され、それぞれ景品が授与されました。

読書マラソン交流会

また、関東圏の読書関連のサークルが集まって、読書マラソン交流会という企画も行われました。会場に作家の森美登美彦さんを招待するなど、大規模な企画となりました。読書マラソンの活動は年々活発となってきています。ぜひ参加し

券500円分がプレゼントされます。本を読んで感想を書くだけで図書券がもらえるなんて、とってもお得な企画ですね。



コメントカード

コメント大賞

さらに年に1回、「全国読書マラソンコメント大賞」が開催されています。全国の大学生協がコメ

て、読書をさらに楽しませよう。皆さんもぜひ参加してください。



次号は 2012年 6月下旬 発行予定

尚、予定は断り無く変更される場合がございます。

友蔵とは

「学生にもっと読書に親しんでもらおう」という理念のもとに生協と協力して創られた書評サークルです。年数回の書評誌発行や生協で行っている読書マラソンのお手伝いをしたりと積極的な活動をしています。普段はお昼に集まってのお喋りがメインなようなユルユルな感じでやっています。興味をもたれた方は、月・金の昼休みに教育7号館3階302号室あたりで集まっているのでお気軽にお越し下さい。お待ちしております。



Tomozo

Vol.17

編集長 フリーケースケ
なんとインタビューにご協力頂いた御二方のうち1人が友蔵に入って下さる事になり、また新入生も来てくれて皆で楽しく活動しています。ですが、例年よりも新入部員が少なく、来年の活動は人数的に厳しくなりそうです。少しでも活動に興味のある方は是非是非遊びに来て下さいね。

発行日 2012年5月17日

発行 生協読書推進委員会
友蔵

生協読書推進委員会
友蔵
毎週月・金曜日 昼休み
教育7号館3階

302号室あたりにて活動中

あとがき

一年間の読書目標を無事達成できたようです、たぶん。(銀魚)

アサクリ3発売決定おめでとう！（アメヤ）

選書というものの大事さを初めて知りました。猛省。
(マトン)

ペンネーム変更です。アサヤマプライムです。よろしく。朝山に許可とってないけどたぶん大丈夫。
(朝山')

書籍インターネットサービス

<http://honya.univ.coop/>

生協ならインターネットでも
和書 **10%OFF!**



携帯はこちらから

CD/DVDもご利用できます

組合員証の提示にご協力ください

オンライン上で和書が検索・注文できます!

日版「HonyaClub.com」との提携で、早く確実なサービスを実現しています。
※「HonyaClub.com」のポイントサービスは生協では適用されません。
※宅配の場合は生協割引が適用されませんので定価販売になります。(送料負担あり)
「本やタウン」をご利用されていた皆様は、そのままのID・パスワードで利用できます。
新規に利用希望の方は、登録をお願いします。

- 文庫、コミックから専門書まで注文できます。
- リアルタイムに在庫が表示されます。
- 在庫品は2~3日で店舗に到着します。

生協店舗で受け取れます。

- ご所属の大学生協店舗をご指定下さい。

メールで状況をご連絡します。

- 生協店舗に入荷した時点で「入荷案内メール」を送信いたします。
- 「ご注文履歴」はマイページから確認ができます。

オンライン書店だから
24時間営業
パソコン携帯からご注文可



お問い合わせは生協の店舗まで

【個人情報扱いについて】

お申し込みの際の個人情報、はご本人との連絡、生協「HonyaClub.com」(日版)からの案内に利用させていただきます。
また大学生協取引先との商品・サービス手配に利用させていただきます。

2012

5/17

毎季

1回発行

平成十九年十月八日第一号発行 平成二十四年五月十七日第十七号発行・配布
住所 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台七九一 横浜国立大学教育七号館三〇二号室
発行・編集 多田啓亮・宇佐見桃代 発行所 工学部生協